

第3回国連防災世界会議における 男女共同参画局の取組について



UN World Conference on
Disaster Risk Reduction
2015 Sendai Japan

内閣府男女共同参画局

ハイレベル・パートナーシップ・ダイアログ 「防災における女性のリーダーシップの発揮」

※本体会議に位置づけられ、幅広いステークホルダーが出席する3つのハイレベル政府間対話の1つ。

日時 2015年3月14日(土)15:00～18:00

場所 仙台国際センター展示棟 展示室1

出席者 共同議長:高市 総務大臣、レガルダ フィリピン上院議会議員

基調講演:安倍 内閣総理大臣

パネリスト: ハロネン フィンランド前大統領、奥山 仙台市長、
ゲオルギエヴァ 欧州連合委員 財務・人事担当、カズン 国連世界食糧計画事務局長、
オショティメイン 国連人口基金事務局長、メレワラシ フェムリンクパシフィック

<安倍総理スピーチ内容>

- ✓女性の力強さを、防災に、災害からの復旧に、そして災害から地域が立ち上がるために、生かしていきたい。私たちは、災害に立ち向かうために女性のリーダーシップが不可欠であると考えています。
- ✓本日、私は日本の新しい防災協カイニシアティブを発表しました。今後4年間で4万人の防災・復興リーダーを育成するというものです。このイニシアティブの主要プロジェクトのひとつとして、「防災における女性のリーダーシップ推進研修」を開始します。
- ✓災害に強靱な社会、つまり「レジリエンス」を持つ社会の構築には、女性が原動力となることが不可欠です。



(写真提供:内閣広報室)

パブリック・フォーラム「女性と防災」テーマ館 「防災における女性のリーダーシップ」

※仙台市男女共同参画推進センター「エル・パーク仙台」で行われた一般公開のシンポジウム

日時 2015年3月15日(日)11:30～13:00

場所 エル・パーク仙台 ギャラリーホール

主催 国連開発計画(UNDP)、仙台市

内容 国内外で防災や復興の最前線で活躍する政府、NGO、民間のリーダーを招き、それぞれの経験や知見から、今後の課題について議論。

- ・開会挨拶: 有村 内閣府特命担当大臣
- ・基調講演: クラーク 国連開発計画(UNDP) 総裁
- ・パネリスト: コルネホ エクアドル危機管理庁長官、
ロヴィーン スウェーデン国際開発協力担当大臣、
カスティージョ DAMPA創設者(フィリピン)、 小林 伊藤忠商事株式会社取締役会長
- ・閉会挨拶: 奥山 仙台市長



パブリック・フォーラム「女性と防災」テーマ館 「災害復興時の女性の活躍～地域経済再生の視点から～」

※仙台市男女共同参画推進センター「エル・パーク仙台」で行われたシンポジウム

日時 2015年3月18日(水)14:00～17:00

場所 エル・パーク仙台 セミナーホール

主催 外務省、内閣府、復興庁

内容 我が国及びAPEC域内での復興過程における女性の活躍に係る事例調査の結果を報告。
女性の起業に関する優良事例の報告を行うとともに、女性の果たす役割の重要性や女性による起業の成功・阻害要因等について議論。



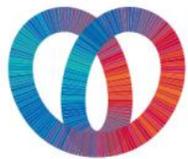
パブリック・フォーラム「女性と防災」テーマ館 「女性と防災」企画展

※仙台市男女共同参画推進センター「エル・パーク仙台」で行われた企画展示

日時 2015年3月14日(土)～3月18日(水)

場所 エル・パーク仙台 スタジオホール

内容 「女性と防災」テーマ館主催プログラム等に関連した企画展示



第3回 国連防災世界会議 パブリックフォーラムテーマ館
女性と防災
Thematic Pavilion : Gender and Disaster Risk Reduction
WCDRR Public Forum

2015.3.14(Sat)–18(Wed)

想いは
立ち上がり
つながり
広がる
Women Can Do IT!

男女共同参画推進連携会議「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組推進」チーム 活動と成果物



内閣府 男女共同参画推進連携会議
「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組推進チーム」を紹介します！

内閣府 男女共同参画推進連携会議とは？

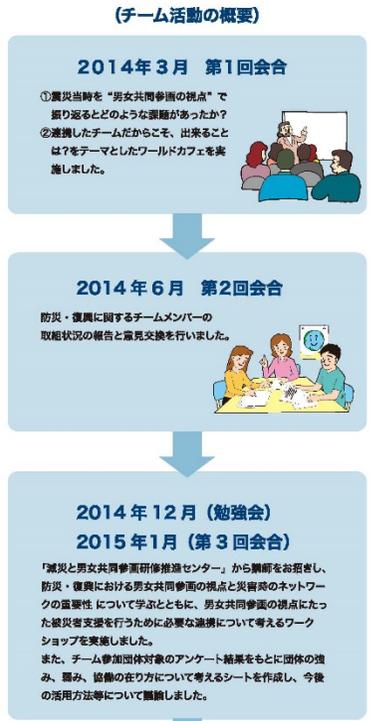
- ◇ 男女共同参画社会づくりに関し、広く各界各層との連携を図り、国民的な取組を推進するため、平成8年9月3日に発足しました。
- ◇ 男女共同参画会議、男女共同参画推進本部とともに我が国の男女共同参画社会の形成促進のための国内本部機構の一つです。
- ◇ 2015年3月現在、113名(有識者18名と95団体)が職員として活動しています。

「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組推進チーム」とは？

- ◇ 男女共同参画推進連携会議では、男女共同参画推進に関する個別重要課題について具体的、実践的な取組を行うため、チーム活動を展開しています。チームは、男女共同参画推進連携会議の有識者層で構成されています。
- ◇ 東日本大震災の際には衛生用品等の生活必需品が不足したり、授乳や着替えをする場所がなかったり、「女性だから」ということで当然のように食事準備や清掃等が割り振られた避難所も見受けられました。このような中、男女共同参画の視点からの災害対応について平常時から関係者が理解しておくことが重要と考え、本チームでの検討がスタートしました。チームでは、男女共同参画の視点を生かした防災・復興の取組の組みに関する意見交換やワークショップを行うとともに組織特性をいかに災害対応ネットワークの構築・検討を行っています。

Introduction to the Cabinet Office Liaison Conference for the Promotion of Gender Equality "Disaster Risk Reduction and Reconstruction Initiatives from a Gender Equality Perspective Promotion Team"

The Cabinet Office Liaison Conference for the Promotion of Gender Equality was inaugurated in September 1996 to facilitate necessary coordination among all sectors and levels of society and promote national activities to create a gender-equal society. The Liaison Conference organizes 3 promotion teams which take specific and practical initiatives to address important individual issues regarding the promotion of gender equality. The Team of Disaster Risk Reduction and Reconstruction Initiatives from a Gender Equality Perspective Promotion Team holds discussions and workshops on disaster risk reduction and reconstruction initiatives focusing on a gender equality perspective. It also examines and establishes disaster response networks that capitalize on the characteristics of the organizations to which its members belong.



これまでの検討をもとに、組織の特性(広域性、専門性、機動性等)を生かして他組織と連携し、男女共同参画の視点からの災害対応を実践するためのツールを開発・発信していく予定です。

男女共同参画の視点からの防災・復興の取組推進
東日本大震災の現場では・・・

- 避難所に授乳や着替えをする場所がない
- 給ミルクと哺乳瓶はあるけれど、お湯がなく、消毒もできない
- 避難所のリーダーは男性ばかりで女性用品などを要請しにくい
- 仮設住宅では男性が引きこもりがち

学びのときに備え平日昼から「男女共同参画の視点からの防災・復興」を展開することが大切です！
そのポイントは・・・

組織特性を生かした男女共同参画の視点からの災害対応ネットワークの重要性
～男女共同参画推進連携会議「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組推進チーム」の取組から見たこと～

ステップ1
「男女共同参画の視点からの防災・復興」について知る
➤ 詳しくは、「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組推進」を参照してください。

ステップ2
自分の属する組織の特性を知る
➤ 「広域性か？」「専門性か？」「多職種連携が得意か？」「被災地での活動経験が豊富か？」
➤ 「専門性は高い？」「災害対応の経験は豊富か？」
➤ 「被災地での活動経験は豊富か？」

ステップ3
自分の組織をどう他組織と連携しよう
➤ 一団体だけでなく複数の団体と連携している。せっかくの強みを、平常時から他組織と連携していることが大切です。
➤ 平常時から他組織と連携していることが、被災時の災害対応に大きく貢献します。

男女共同参画の視点を持ちながら、さまざまな組織と日頃から協働して防災・復興の取組を広げていきましょう

企画展で配布したリーフレット

東日本大震災の経験から見てきた男女共同参画に係る課題とその後の対応

【課題】

- 防災・復興の策定・方針を決める過程に女性が参画していない**
● 総務省防災会議の女性参画割合：3.5% (12都道府県では女性参画ゼロ)
※平成23年4月時点
● 復興計画策定に当たっての委員会等の参画割合：11.2%
※平成24年4月時点、35府38市町村
- 災害対応における女性のニーズの認知に配慮がない**
● 避難所に授乳や着替えをする場所がない/生活必需品や女性用下着が不足/避難所運営委員が男性のみであるため参画が取りにくい、要請しにくい
● 仮設住宅等における女性の引きこもりや孤立化が顕著化
- 災害が起きてから急に男女共同参画の視点で対応しようとしてもできない**
● 大震災前は、防災対策から男女共同参画の視点を踏まえた対応の実現を行ったが、災害時の復旧策は不十分

【主な対応】

- 災害対策基本法を改正し、地方防災会議の委員に女性を任命しやすくしました。(平成24年6月)
● 地方公共団体に対して女性の参画拡大を要請しています。
- 地域防災計画の指針となる防災基本計画を修正し、男女共同参画の視点を取り入れた防災体制について、より具体的に明確化しました。(平成23年12月、24年9月、25年1月)
- 平常時から男女共同参画の視点からの災害対応について関係者が連携しておくことが重要との観点から、「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組推進」を推進しました。(平成25年5月)

男女共同参画の視点から防災・復興の取組を推進するにあたって・・・

チェックリスト

- 政策・方針決定過程に女性には参画していますか。
- 女性と男性の両方の声をきちんと聞いていますか。
- 要介護高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊産婦等のニーズに配慮していますか。
- 女性と男性とは考えの影響が異なるかもしれないということを意識していますか。
- 特定の活動が片方の性に偏るなど、性別や年齢等により役割が固定化されていませんか。

＜参考＞ 都道府県防災会議の委員に占める女性の割合の推移

年次	女性委員の割合(%)
1996	2.1
1997	2.1
1998	2.4
1999	2.4
2000	2.4
2001	2.4
2002	2.4
2003	2.4
2004	2.4
2005	2.4
2006	2.4
2007	2.4
2008	2.4
2009	2.4
2010	2.4
2011	2.4
2012	2.4
2013	2.4
2014	11.2

「女性と防災」企画展で展示したパネル